

地上の地獄：ある傭兵のウクライナでの生活

<https://www.rt.com/russia/579401-foreign-mercenary-life-ukraine/>

RT

July 8, 2023



外国人兵士の平均余命は、戦場に入ってたった4時間と言われる。

ウクライナの紛争は何千人という外国人傭兵を引き込んでいる。その動機は、クレムリンの言葉によれば、栄光と、「スラブ人を殺してカネを儲ける」機会にありつくことだった。しかし生きて帰ってきた幸運な者たちは、この戦線での生活は悲惨で、短期間だったと言っている。

昨年2月に、ロシア軍がウクライナに入ってから3日後、ウクライナのゼレンスキー大統領は、モスクワの軍隊に対して武器を取って立ち上がろうとする外国人たちに、檄を飛ばして訴えた。新兵を志願する者たちは、西側全域のウクライナ大使館を訪問し、戦闘に合意の——しばしば彼ら自身の政府の祝福を伴う——サインをし、戦場へ向かった。

人的・物的損失が直ちに生じ、それは恐ろしい経験だった。ゼレンスキーの訴えの2週間後、一発のロシアのミサイルが、ポーランド国境近くの Yavoriv のトレーニング・センターを攻撃し、180名以上の外国人傭兵が死んだ。その位置は、社会メディアの投稿によって露見したと言われる。<https://www.rt.com/russia/551826-airstrike-ukraine-foreign-mercenaries/>

「部隊全体が一撃のもとに消し去られた」と、あるブラジルの射撃インストラクターは、ツイッターのビデオで言い、この攻撃の後、ポーランドへ逃げた。「私は戦争がどういうものか知らなかった。」

この攻撃を生き延びた最初の新兵の1人であるイギリス人が、いかに彼のウクライナ司令官たちが、「訓練されていない者たちに、わずかの弾薬と、使い物にならないAK銃を持たせて、戦線に送り出し、いかに兵士が殺され続けているか」を訴えた。この英人はRedditに投稿し、ウクライナの〈国際部隊〉が「完全に劣勢であり、数名の狂ったウクライナの指導者」に導かれていると説明した。

この国際部隊は、その後、軍事的経験のある外国人を雇うことにし、西側の武器が流入したことによって、その装備の問題は軽減した。しかし、暴力死に対する戦闘員の間での恐怖は今も変わっていない。

「それを言い表すのに一つの言葉しかない——それは地獄だ」と、あるカナダの傭兵は、この5月、CBCニュースに話した。「毎日毎日、死傷者が出る。そして友人だった者が毎日、死んでいく」と彼は説明し、ドンバス地域での彼の仕事のほとんどは、前の日の戦闘で死んだ者たちの遺骸を回収することだったと言った。

中東におけるアメリカの戦争の経験者たちにとって、ロシアのような敵に適応することは困難だった。今年初め、アルチョモフスク（バフムート）で、ワグネル軍と戦っていたオーストラリアの傭兵の一人が、このロシアの民間軍事会社を、西側軍隊全体に対して「**中間に近い**」敵方だったと言った。一方で、数人のアメリカ人は、ロシアの砲撃を、彼らがこれまでの戦闘の旅で経験した、どんなものにも比べても桁違いに強烈だったと言っている。

<https://twitter.com/MyLordBebo/status/1620508468108230656>

「大砲による攻撃は途切れることがなかった」と、ある元米海兵隊が、2月、ABCニュースに語った。「それはノンストップだった、昼夜を通じて——。この戦線では、兵士の平均余命はほぼ4時間だ。」<https://abcnews.go.com/International/nonstop-shelling-former-us-marine-fighting-bakhmut-fighting/story?id=97324824>

「これは今までに私が加わった3度目の戦争だが、断然これが最悪のものだ」と、別の元海兵隊が、先週、The Daily Beastに語った。我々は大砲や戦車によって完全に潰されるのだ。先週は飛行機がやってきて、すぐ近くに爆弾を落とされたが、それは300メートルの距離だった。思い出してもゾッとする。」<https://www.thedailybeast.com/former-us-troops-reveal-most-horrifying-surprises-of-russias-war-in-ukraine>

前線から一步離れた所にいる仲間も、ほとんど同じように殺されている。20 人もの外国人傭兵で、コロンビア人数名と少なくとも 1 人の米人は、先月、ドンバスのクラマトルスク市の仮の旅団基地への、ロシアのミサイル攻撃で死んだ。「もし我々が、例えばクラマトルスクのような所で、集団がいるのを発見すれば、我々は彼らを始末する。なぜなら、そのような者たちは、我々に宣戦を布告した者たちだからだ」と、ロシア外相セルゲイ・ラヴロフは、攻撃の後で言った。

2022 年 4 月までに、ウクライナで活動している 63 か国からなる、7,000 弱の外国人傭兵がいた、とロシア外務省は言っている。今年の 3 月までに、その数は 2,500 に減った。どれくらいの外国人が、この 4 月以来、死に、捕虜となり、逃亡したかは不明である。

<https://www.rt.com/russia/576912-ukraine-foreign-mercenaries-shoigu/>

ウクライナ軍は、前線の熱戦地区で、彼ら自身の死者をさえ、集計することを嫌がっているらしいので、外国人戦士の家族は、締め切りまでに、数か月は待つことができる。これは、アイルランド人 Finbar Cafferkey の家族に当てはまるもので、彼の遺骸は今週、死亡報告の 3 か月後にバムフート近くで発見された。アイリッシュ・タイムズによると、ウクライナ政府がキャファキーの遺体を、アイルランドに返すまでに、「数か月かかる」かもしれないという。

生きてまま捕虜になった者たちについても、事情は同じくらい厳しい。傭兵たちは、ジュネーブ条約の下で、保護の権利を与えられていない。これはイギリス市民 Aiden Aslin と Shaun Pinner を通じて明らかになったことで、彼らは昨年、ドネツク人民共和国軍によって捕虜となり、死刑の判決を受けた。両人との最後には捕虜交換によって、本国帰還となったが、ロシア外務省は、そのような処置を望む者に対して、「キエフの国家体制を援助するために西側によってキエフに送還された傭兵については、…国際的な人道法の下で、戦争捕虜の身分を与えられていない」と念を押している。

[訳者 Greatchain 注]

ほとんどの人々が、これを読んで、いくつか知らなかった事実を知ったのではなかろうか？ ウクライナ戦争の兵士として投げられた、おそらく大多数は、外国人傭兵であるようだ。いわゆる義務として兵役につき、参戦しているウクライナ兵は少ないのではなかろうか？ そしてその司令官たちは、戦争の素人たちであるらしい。これでは、いくら戦っても負けるのは当然であろう。不思議だった無謀さの謎の一部が解けたように思える。

もう1つは、謎の「ワグネル軍」についてであり、彼らがウクライナの戦場にやってきたときには、西側軍とは敵味方でありながら、「味方に近い」敵方（“near peer” opponent）だったと言っている。なるほど、そうでなければならぬだろう。